

自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました

令和5年3月2日（木）、自由民主党「バス議員連盟総会」が開催されました（於 自由民主党本部 701号室）。

日本バス協会からは清水会長はじめ、南副会長、青沼副会長、宮本副会長、丸山高速バス委員長、塩川環境対策委員長、早川税制対策委員長、古川理事、西村理事などが出席しました。

冒頭、バス議連会長の逢沢先生が、バス業界がコロナによる厳しい状況にあることを踏まえ、観光バスの需要回復や路線バスの経営が持続可能となるよう、バスを支えていく新たな基盤作りに取り組んでいく旨ご挨拶されました。



続いて清水会長から、先の固定資産税減免措置への感謝を述べた後、3年間続くコロナ禍でバス会社は本当に困っており、路線バスの赤字に対する特別交付税の十分な補填、全国旅行支援の最低3年間の継続実施、外国人バス運転者の導入、EVバス導入への補助金の拡充、などを強く要望しました。



出席された先生方からは、乗合バスに係る国・地方の補助や特別交付税は適切なコストを反映させた制度となるよう総務省と国交省が連携すべき、また貸切バスでは、全国旅行支援の長期継続のほか需要喚起のPRを総理が行うべきなど、多くの力強いご発言をいただきました。

これらに対し、観光庁からは、全国旅行支援の4月以降の実施について現在調整中であることが報告されたほか、各省庁からは、今日の要望等を受け止めてバス事業の支援に向けて取り組んでいきたいなどの発言がありました。

このあと、ご出席の先生方により、バス事業の継続に必要な国の支援を求めるバス議連の決議が満場一致で決定され、その取扱いは逢沢会長に一任されました。

最後に逢沢会長から、今日の乗合バス支援の重要な議論を踏まえ、よりよい施策となるようさらに議論を深め、バス事業をしっかりと支えられるよう努力していく旨のご挨拶をもって終了しました。

【※ご出席の先生方については、バス議連事務局（武井俊輔事務所）に確認中。】